

OPPAの汎用性に関する研究

－附属小学校校内研究の推進を中心として－

A Study of the Degree of General Versatility Concerning the OPPA:
Focus on the Development of the Research of Attached Elementary School of University

中 國 昭 彦* 堀 哲 夫**
NAKAKUNI Akihiko HORI Tetuo

要約：OPPAは理科の有効な評価方法として2002年に開発され、小・中・高等学校において多くの実践事例が報告されてきている。OPPAの枠組みやその表記は全教科全領域で使用可能であり、多くの教科・領域で実践が報告されているが、その汎用性が教師に周知されていないため、校内研究会の評価の柱としてOPPAを活用した研究報告はほとんどない。本研究では、校内研究の評価方法として6教科が実践使用中で、子どもや教師の記述からOPPAの汎用性と校内研究の評価方法として、教師の教育観の育成・変容による授業改善としての有効性を検証している。

キーワード：OPPA, 教師の教育観, 校内研究, 汎用性, 授業改善

I はじめに

本校の校内研究主題は「仲間と共に学び続ける子ども」である。3年次計画で今年度新たにスタートした。具体的には、授業の中で全ての子どもが「学びの実感」を感得できる授業の創造を目指す。本校における「学びがい」とは、子どもが「学ぶかきがありそうだ」という期待感や、「学んだかきがあった」という達成感を感じることに、さらに、身に付けた知識や技能が「次の学習や日常生活に活かすことができそうだ」という有用観を子どもが自覚することである。

しかし、当然のことながら、子どもが学びのプロセスの中で実感した「学びがい」は、一人ひとりの子どもによって異なり、それらをもとめることは大変難しい。

これまで「一枚ポートフォリオ評価法（OPPA：One Page Portfolio Assessment）. 以下OPPAと記す）」は理科で扱われることが多く、全教科内容で活用可能である汎用性はあまり知られていない。また、小学校校内研究で評価の柱としてOPPAを活用した事例は極めて少なく、研究内容を評価・検証した実践報告もない。本校においてもこれまで理科のみがOPPAを研究に取り入れていた状況であった。

II 研究の目的

本研究の目的は、子どもが「学びの実感」を獲得する過程をOPPAにより検証し、OPPAが全教科で活用できるという汎用性を確認することと、教師の教育観の育成・変容を促すことの2点である。

* 附属小学校 ** 理事, 副学長, 教育国際化推進機構長

III 研究の方法

今回使用する OPP シート (OPPA で使用するシート) は、4つの基本要素からなる。また、使用する教科の特性及び使用する学年の発達段階を考慮し、これら4つの要素の中から OPP シート構成要素を選択し作成している。

- A 学習前・後に記入する「本質的な問い」およびその自己評価欄
- B 毎時間学習後に記入する「学習履歴」欄
- C 授業の最後に記入する「学習全体の振り返り」である自己評価欄
- D 友だちや家庭からの一言欄

A, B, Cによる子どもの「自己評価」が、Dによる相互評価・他者評価が可能になることで、「学ぶ意味」や「学ぶ必然性」の獲得が促される。ここでいう「自己評価」は、「概念の形成過程の自覚化」を指す。これらにより、本校研究主題である子どもの「学びの実感」の獲得が可能になると考え、校内研究の評価方法の一つとして取り入れることとした。

本年度は、理科、社会、音楽科、家庭科、体育科、外国語活動の6教科において、各教科等の特質に応じた工夫を講じ、次の2項に視点をあてOPPAの汎用性を検証した。

- ◎ 授業後の振り返り (構成要素A・C)
- ◎ 学習の過程において教師と子ども、子ども同士で問い直す場の設定 (構成要素B・D)

検証のための実践授業は、今年度本校初等教育公開研究会 (6月25日土曜日) に向けて取り組んだものである。対象学年及び教科は、2年音楽科、3年社会科・理科、5年体育科、6年家庭科・外国語活動であり、それぞれ35人学級編成である。

また、図1に示した「先生方のOPPA」より、OPPAの汎用性及びOPPシートに毎時間記入する学習履歴による子ども自身の表記が教師の教育観の育成・変容に有効か検証をした。

先生方へのOPPA 名前 ()

☆これは教職員評価等には全く関係ありません。どんなことでも素直に気軽にお書き下さい。

【OPPA使用前】	【OPPA使用后】
<p>1 OPPAを使う前、OPPAについてどのようなことを思っていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むずかしいイメージ ・型にはまってしまう。 ・意義があるとはわかるが、これも使い方を書かせ、活用の仕方がわかりませんでした。 	<p>2 OPPAを使った後、OPPAについてどのようなことを思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思考力表現力を高めることができる。 ・毎時間、記述すると、子どもの記述から授業の達成度 (子どもの理解度) がわかり、授業改善することができる。また、OPPシートでのやりとで子どもは不足していることを補った上でさらに高められる。個別のやりとだけでなく全体にもかえることができる。 ・子どもも教師も、単元全体のバランスが簡単に学びのねがが明確にできる。 ・単元をつらぬく問いの前後を比較することで、子ども自身で成長を感じることができていた。
<p>3 OPPA使用前と使用後と比較して、何か変わったことがありますか。何も変わらなかった場合、何か変わったことがある場合、どちらにしても、それはどうしてなのか自由に詳しく書いてみてください。</p> <p>ふりがしと評価にと有効であることがわかった。むずかしい、とつづいてイメージだったが、堀先生などにお話をきいて「まずはやってみる」を継続して「みる」として、むずかしいという捉えはよくその有用性を感じた。子ども一人ひとりのみごととほめることができるようになった。その個に合わせたサポートを伸ばせようと思った。自分の教員としての授業とバランス改善に役立てられるようになった。単元をつらぬく問いの「学習前」に記入するところから、子ども達は自分が学びたいと見出し、目的を明確にして、単元全体を学習していけるようになった。(私、教師もこの問いを事前に考えることで、学びたいことがはっきりした。)</p>	

図1 先生方へのOPPA

IV 実践授業による成果と課題

実践授業で使用した OPP シートは資料図 1 から図 6 参照。

実践授業後に記入した「先生方への OPPA」は資料表 1 参照。

1 研究の目的 1 : OPPA の汎用性の確認

(1) 全教科で使用可能な OPPA

○ 指導教師の OPPA 使用後の振り返りから

資料表 2 の「先生方への OPPA」内 OPPA 使用後の記述内容から、すべての教科においてその有効性を確認することができた（原文のまま一部抜粋）。

- ・ **外国語活動**：子どもたちが毎時間どのようなことを感じ、変容していくのかが想像以上に具体的に分かりました。
- ・ **家庭科**：毎時間記述することで、子どもの記述から授業の達成度（子どもの理解度）がわかり、授業改善することができる。また、OPP シートのやりとりで子どもに不足していることを補ったり、さらに高められる。個別のやりとりだけでなく、全体にもかえすことができる。
- ・ **音楽科**：子どもが何を考えているのか、どう考えていたのか、何がわかり、どう感じていたのか文から読み取ることができ、授業を考えていく上で参考になった。
- ・ **体育科**：OPP シートに発見したことや思ったことを言葉で表すことで、児童自身が自分の動きや変化に気づくことや、教師から子どもの変化や課題のみとりに有効であった。
- ・ **社会科**：社会科の内容でも活用できる。学習前や学習後の振り返りを書くので、単元の流れを意識した授業を実践することができた。
- ・ **理科**：OPP シートを書くという目的のために授業への集中力が高まった。

その他、前後の比較の記述内容からも、「外国語活動においても OPPA を活用していけるのだ：外国語活動」「その有効性を感じた：家庭科」「OPP シートを見て、自力で振り返り、授業に臨むことができた：音楽科」「授業を考えられる術を手に入れられた：体育」「OPP シートを作成することで、単元構成の中で指導すべきこと・児童に考えさせることなどについて意識できた：社会」「学びがいを表出させ、意識化させるのに有効な評価方法：理科」との表記があった。

○ 子どもの OPPA 活用状況から

今回実践した教科は、社会科・理科・体育科・家庭科・音楽科・外国語活動の 6 教科である。技能教科である家庭科、音楽科や体育科、さらには外国語活動においても、OPPA の基本的構成要素を組み込み、2 年生から 6 年生までのすべての子どもに有効活用することができた。このことからすべての教科において、その特性や学年を考慮しながら、基本的構成要素を組み込んだ OPPA を活用することが可能であるといえる。

○ OPPA 活用の課題

OPPA 使用後の記述の中には、「書くことが苦手な子どもにとって授業の終わり 5 分で OPP シートを書かせるのはきびしかった。：理科」「文を書くことを苦手としている児童は、なかなか書くことができず、分かったことや大切だと思ったことが単なる感想で終わってしまっていた。：音楽科」と記されていた。理科は 3 年生、音楽は 2 年生と低学年での活用だったので、書くことを苦手としている子どもには負担が感じられたと思う。しかし、5 分で書けない子どもには後で書いたり、次の機会に書き足したりすることを良しとすることで書く時間を確保する配慮をすることも大切である。このような中で、思考し表現する力を育成していきたい。書かせることが難しかった 2 年生音楽科の OPPA 前後を比較した記述の中に「子どもたちは、書くことに対してははじめはとまどっていたが、回数を重ねるごとに慣れていき、最後はかなりスムーズに書けるようになった

てきた。」と書かれていた。このことは、2年生においてもOPPAの基本的構成要素への対応ができることを示している。低学年時よりOPPAを活用することで、より幅広い学年での使用も可能となり、それは低学年時より思考力・判断力・表現力を高めることとなり、学びの意味を感得する中で自ら学ぶ子どもの育成につながると考えられる。

(2) OPPOの基本的構成要素の汎用性

OPPAには、「単元名・タイトル」「学習前・後の本質的な問い」「学習履歴」「学習後の自己評価」を基本構造としている。資料図1から図6で示したように各教科・各学年において工夫を講じた内容のOPPシートは、すべての構成要素において子どもに記入ができ、前述した有効性と考え合わせるとこれらの構成要素が全教科で使用可能であるといえる。

さらにここでは、校内研究の主題である学びがいの検証がOPPAの活用で可能であったかを、OPPシートの以下の構成要素に視点をあて分析する。

- A 学習前・後に記入する「本質的な問い」およびその自己評価欄
- C 授業の最後に記入する「学習全体の振り返り」である自己評価欄
- D 友だちや家庭からの一言欄
- 学習前・後に記入する「本質的な問い」の自己評価の記述から

表1は、各教科OPPシートに子どもが書いた本質的問いに対する自己評価欄の内容である。

表1 各教科のOPPシートに記述されたAの内容（原文のまま）

A 学習前・後に記入する「本質的な問い」における自己評価
<p>理科：学習前と学習後では学習前は書きにくかったけど学習してじしゃくの事をよく知ってたから学習後はとてもいっぱいかけたし書きやすかったです。学習後の方がいっぱいかけました。</p> <p>体育：ちがいがあった。理由：バレーボールの楽しさ、おもしろさ、良さが学習でわかったから。</p> <p>家庭科：あります。はじめは栄養バランスしか考えていなかったけれど、この勉強をして家族のこと、時間のこともよく考えられました。楽しい会話ができるのもごはんを食べる時の1つのことだと思うことに気づけたので、学習前と後がちがうようになったと思います。</p> <p>音楽：学しゅう前は気もちなどがわかっていなかったけど、学しゅうごは、気もちを歌しから見つけるとか声をたかくしたりひくくしたりすることがわかったから。</p> <p>外国語活動：学習前は英語で、うまく表現できなかったけれど、学習後は、英語でうまく表現できた。</p> <p>社会：学習前は、ただきかいを使って水をつくっていたと思っていたけれど、学習後は、たくさんのかかっていることがわかりました。あと、水を使う前も、使った後も私たちが支えていることもわかりました。</p>

表1に示したように校内研究会のテーマである学びがいについて、学習前後の本質的な問いにおいては「学習後の方がいっぱいかけた：理科」「バレーの良さが学習で分かった：体育」「学習前後でちがうようになった：家庭科」「学習後は英語でうまく表現できた：外国語活動」等と学習することの意味や喜びが各教科の指導内容に沿った表現で書かれていた。

- 授業の最後に記入する「学習全体の振り返り」である自己評価の記述から

表2は、各教科OPPシートに子どもが書いた学習全体の振り返りに対する自己評価欄の内容である。

表2 各教科のOPPシートに記述されたCの内容（原文のまま）

C 授業の最後に記入する「学習全体の振り返り」である自己評価
<p>外国語活動：始めて学習したときは、何をしてどのように表現するのか、わからなかったけれど、学習していくうちに、どのように表現するかわかった。</p> <p>社会：これまで、「水」の勉強をして、しせつのかかわりなど、たくさんの人がかかわっていて、働く人たちによって、水がとどけられたり、かかわる人たちによって水か、「安心・安全」に使えることがわかりました。</p> <p>音楽：1ぶぶんだけスピードをかえれば気持ちが変わるし、あい手もとてもわかりやすいと思いました。</p>

表2で示したように学習全体の振り返りにおいても学習履歴を確認しながら「学習していくうちに：外国語活動」「これまで水の勉強をして：社会」のように、学習全体を振り返りながら、学習で得られた成果を記述することができていた。学習全体を振り返る際に、1時間1時間のタイトルや一番大切なこととしてまとめあげた1目で見られるよう可視化された「学習履歴」は、子どもにとって数時間におよぶ学習を想起させるのに大変有効であったことがわかる。

○ 友だちや家庭からの一言欄の記述から

表3は、各教科OPPシートの友だちや家庭からの一言欄に友だちや家庭が書いた内容である。

表3 各教科のOPPシートに記述されたDの内容（原文のまま）

D 友だちや家庭からの一言欄
<p>他者評価 家庭科：一度作っただけですが、たくさんのことを学ぶことができたようですね。</p> <p>体育科：ラリーを続けるためにチームで話し合ったり、協力し合っている姿がとても印象に残りました。また皆が楽しそうに笑顔で取り組んでいたの、見ていて嬉しく思いました。</p> <p>相互評価 体育：動きがすばやくて、みんなにパスするのが本当に上手です。</p> <p>音楽：いろいろなことがかいていてすごいね。</p> <p>家庭科：献立の大切なこと、食事をつくる大変さを実際に理解して、自分がつくる時どうするかを考えていていいですね。</p>

表3で示したように友だちや家族からの一言欄において、家族から「たくさんのことを学ぶことができた：家庭科」「協力し助け合っている姿が印象的：体育」友だちから「上手だね：体育科」「すごいね：音楽科」と評価されたことは、本校の学びがいである達成感や有用感を他者からも認識することができたと考える。

表1・2・3の子どもたちの記述内容から、OPPAは技能教科や外国語活動等あらゆる教科において、学びがいを表出させ、校内研究の検証として有効活用することができた。学びがいを子どもの記述として残せたことは、大きな成果であった。

このように、OPPAの構成要素は資料図1から図6で示したように基本的な枠組みと表記で、全教科に活用することができる。

(3) 本質的な問いの汎用性と授業構成

○ 指導教師のOPPA使用後の振り返りから

資料表1に示した「先生方へのOPPA」の記述内容から、本質的な問いに関わるものから分析する。

(原文のまま抜粋)

- ・ **家庭科**：単元をつらぬく問いの「学習前」に記入することから、子ども達は自分が学びたいことを見出し、目的を明確にして単元全体を学習していけるようになった。(また、教師もこの問いを事前に考えることで、ここで学ばせたいことがはっきりした。)
- ・ **社会科**：OPP シートを作成することで、単元構成の中で指導すべきこと・児童に考えさせることなどについて意識できた。
- ・ **外国語活動**：学習前後の質問によって、より具体的に子どもの様子を把握できたり、逆にできなかったりするのだろうと感じました。外国語活動が“外国語に慣れ親しむ”活動であるため、単元ごとの学習内容のつながりがうすく、学習前と学習後の同じ質問の設定についてイメージが持ててなかったからです。
- ・ **理科**：学習前後の問題の記述は、全員がくわしく科学的な内容になっていて、子ども自身が達成感・満足感を味わうことができる。

4教科に本質的な問いに関わる記述があった。家庭科と社会科の記述から、本質的な問いが、一連の授業で教師が何を一番教えたいのかがその問いとなることがわかる。つまり、OPPA で本質的な問いを作成するという事は、授業構成が練り上がった段階でなければならないのである。したがって、教師の授業構成、指導単元での目標等がはっきりしない段階で本質的な問いを考えることは難しく、そのような問いでは子どもの回答もぶれが生じてしまう。外国語活動の記述からは、本質的な問いの設定に関わる難しさが伺える。理科の記述には、適切な問いを作成したときの成果が書かれている。

すべての教科において指導する前に授業構成を検討し、本質的な問いを考え子どもと向き合い、子どもと教師がその問いをよりどころに授業を振り返ることは大きな意味があることは、前述した本質的な問いに対する子どもの自己評価からも判断できる。

2 研究の目的2：教師の教育観の育成・変容を促すOPPA

資料表2より研究の目的である教師の教育観の育成・変容にOPPAは有効なのかをその記述内容から分析する。

○ OPPAに取り組む前の教師のイメージ

OPPAを使用する前の教師の本評価方法に対するイメージは、「むずかしそう：家庭科」「書かせることが大変そう：音楽科」「何を書かせればよいのかいまいちわからない：体育科」「理科だけの評価方法だと思っていた：社会」などよいものではない。

○ OPPA使用後の教師のイメージの変化

しかし、実際にOPPAを活用することで、「子どもの思考力・表現力をたかめることができた：家庭科」「子ども達たちが単元を通しての変容を感じ、達成感や充実感を自覚することができた：外国語活動」「授業をしていく上で参考になった：音楽」「児童自身が自分の動きや変化に気づくことや、教師から子どもの変化や課題のみとりに有効であった：体育科」等その有効性を実感し、使う前のよくないイメージを払拭していることがOPPA使用後の記述内容からわかる。

○ OPPA使用後の教師の教育観の育成・変容

OPPAは、子ども自身が学びの必然性を感じ、それをOPPAの紙面に書き残すことの大切もあるが、もう一つの側面である教師自身がOPPAに表出された子どもの生の記述をどう捉え、教師自身の変容につなげていくのかということが問われる。

表2のOPPA使用前後の比較の記述内容から、教師の教育観の育成・変容につながる表記をいくつかとりあげる。単元を貫く問いは、学習を通して一番大切にしたい本質的な問いとなる。その問

いを授業前にしっかりと持つことの意義を知ることができての「質問をどう設定すべきかについて」も具体的にイメージを持つことができた：外国語活動」という記述は、授業を構築する上で重要な姿勢といえる。

また、子どもたちの毎時間の学習履歴の記述を受け止め、以下のように考えられることも子ども主体の授業にはなくてはならない姿勢である。

「自分の教員としての授業をふりかえり、改善に役立てられるようになった：家庭科」

「単元の学習過程に対する意識が変わった。1時間ごとの授業への意識が変わった：社会科」

「子どもの日々のふり返りが、自分の行った授業の評価になっている：体育科」

「児童の理解度の把握、教師の授業の振り返り、見通しをもった学習計画：理科」

このように OPPA は、教師の教育観の育成・変容を促すものであるといえる。まさに、OPPA は教師と子どもが向き合った双方向の評価方法であるといえるのではないだろうか。

V 今後の課題

全教科で活用が可能な OPPA の汎用性と本校の研究内容と OPPA の有効性との関わりやわかりやすく明確な研究の提案及び検証を考えると、評価方法を一本化し OPPA に取り組むことが研究を深めるためには望ましい。

しかしながら、実際は、初等教育公開研究会までの2ヶ月間という短い期間の中で、OPPA を評価の柱として扱わせることは難しかった。これも、評価とは何かといった教師の評価観に課題があることによると考えられる。これについても、検討を重ねる予定である。

4月から OPPA に取り組んだばかりの若い教師が、実践後の「先生方への OPPA」の中で記述していた「それをどう活用していくかはまだまだ今後の課題ですが・・・」という気付きに大きな期待を寄せたい。さらには、今後3年間の研究期間の中で、評価方法の柱としての OPPA としていきたい。

(謝辞)

校内研究会を推進するにあたり OPPA を活用・実践し、貴重な資料を提供していただき、また本研究を進めるうえで「先生方への OPPA」記入にも快くご協力していただいた先生方に心より感謝申し上げます。

山梨大学教育学部附属小学校

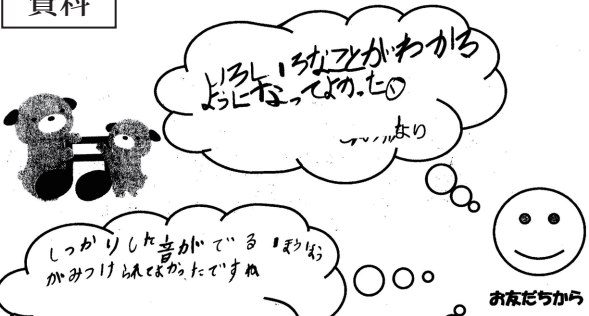
三澤 瞬教諭, 赤井 大悟教諭, 鈴木 基生教諭, 中島 康夫教諭, 池田理恵子教諭,

福留あゆみ教諭

参考文献

堀 哲夫 (2013)『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価法 OPPA 一枚の用紙の可能性』東洋館出版社.

資料



いろいろかわかち
よになつての。ヒョ
より

しっかりした音がでる。おんが
かみつけはかかったですわ
より


いろいろなことが
かいていてすごいわ
より

「海とおひさま」のおべんきょうのかんそうを書いてみましょう
「ぶんたけスピード」をかえれば「気もち」かわ
るし、あい手もとてもわかりやすいと思いました。

海とおひさま

タイトルをつけてみよう


いろいろな気もち



三、海は 大きき おひさまが
空は じつぱ 見上げて
るんあー らんらん あそび
ひかすを うかべ おんが

一、海は 朝日が のほめと
海は 夜は 静か
ちかちか ちかちか
たのしい じつぱ

二、海は 夕日が じつぱ
海は なんだが ちかちか
ちかちか ちかちか
さかなを だいて ゆれてい



2年 組 名前 ()

「海とおひさま」で、かきを大せつにしてうたうには、
何に気をつけてうたえばよいでしょう？

学しゅう前
・心をこめてうたう。
・うたっているときどうかんじなのか考えてうたう。
・みんなの心をうつしてうたう。何かわかぬかな？
着たこととはどうすればうたえるかな？

学しゅう中
今日のじゅぎょうで、1ばん大せつだと思ったことを書きましょう！

① 6月16日
やさしくうたう
せしよくえかいてう
たう
大げなうたわ！

② 6月20日
おのいかにしんが
かみつける
うたわね、かきかわかたことうたわ
あわすたにはどうすればいいかな？

③ 6月25日
おんがうたのときは声をたか
うたう。
おんがうたのときは声をたか
うたう。
声をたかしたり、かくしたり、
むすかしたり。

④ 7月1日
おんがうたのときは声をたか
うたう。
おんがうたのときは声をたか
うたう。
かきやすくなる。
みんなも大きなうたわたり、
うたわたりはあつたわらわ。

⑤ 7月5日
メロデーをよよく聞いて
気もちをみつける。
メロデーの何があつたかな？

⑥ 7月6日
おんがうたのときは声をたか
うたう。
おんがうたのときは声をたか
うたう。
はきはきとあつたわらわ。
あつたわらわ。

「学しゅう前」と「学しゅう中」でちがうところはあつたかな。どうして
ちがつたのかな。
学しゅう前は気もちなどかきかわかっているから、ただ学しゅう
中は、気もちを歌からみつける、とか、声をたかしたり、
かくしたりすることかわかつたから。

図1 音楽科2年 A3二つ折りOPPAシート（上：表，下：裏）

【友だちからの一言】

()より

()より

()より

()より

6年外国語活動

Lesson5 「Let's go to Italy.」

(タイトルを自分でつけよう)

行きたい所を英語もついで表現しよう!

6年 組 番 _____

氏名 _____

【学習前】

☆行きたい場所を紹介するときに、どのような表現を使いますか。

① 英語で「行きたい所を言おう!」

【学習後】

☆行きたい場所を紹介するときに、どのような表現を使いますか。

② Q Where do you want to go?
A. I want to go to _____.

【学習前・後の比較】

☆学習前と学習後の内容を比べて、違うところがありますか。その違いは、どうしてできたと思いますか。

学習前は英語でうまく表現できなかったけれど、学習後は英語でうまく表現できた。 <chic> がんばったよ!

【学習中】 ☆今日の授業で一番大切だと思うことを書きましょう。

① 6月10日 (金) 世界の国の名前を教える
② 6月17日 (金) Where do you want to go?
③ 6月24日 (金) 行きたい所をグループで決める。
④ 6月25日 (土) Where do you want to go?

感想: 国名を覚えてきたよ、よかった。
感想: みんながどこに行きたいかがわかった。
感想: グループで協力して決めて仲が深まった。
感想: みんなの行きたい所がわかったよ、よかった。

【ふり返り】

☆①から④の学習をふり返り、何がどうかわったのか、またそのことについて思ったのか書きましょう。

③ 初めて学習したときは何をしても、どのように表現するのかわからなかったけれど、学習してからは、どのように表現するかわかったよ。 <chic> がんばったよ!

図5 外国語活動6年 A3二つ折りOPPシート (上:表, 下:裏)

表1 先生方へのOPPAのまとめ一覧（原文のまま）

<p>OPPAを使う前，OPPAについてどのようなことを思っていましたか。</p> <p>外国語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1枚のシートで単元全体の学習の様子について把握できるので，教師が子どもの学習内容の定着度を図る上では便利だろうと感じていました。 ・学習前後で同じ質問をするので，子どもの変容が見やすいのだろうと感じていました。 ・外国語活動でOPPAを使う場合を考えた時，学習前と後での質問をどう設定するのが良いかイメージがあまりわきませんでした。 <p>家庭科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むずかしそうなイメージ ・型にはまってしまいそう。 ・意義があることはわかるが，そもそも使い方，書かせ方，活用の仕方がわかりませんでした。 <p>音楽科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書かせることが大変そう（特に低学年） ・コメントを書くことが大変 ・実技教科（音楽）ではどう使えばいいのかわからない。 <p>体育科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つ1つのコメントを書くのが大変そう。 ・何を書かせれば良いのか，いまいちわからない。 ・毎回書く時間を取るのがむずかしそう。 <p>社会科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科だけの評価方法だと思っていた。 ・副校長先生の話聞いて，やってみたいと思った。しかし，授業1時間ごとの振り返りの記入は，大変そうだなと感じていた。 ・単元前と単元後を記入する部分があるので，単元の学習後に児童の記入内容に変容が見られなかったら，どうしようかという不安もあった。 <p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科教育を専門とされている堀先生が考案されたものなので，「理科」の評価方法だと思っていた。 ・OPPAで何がみとれるのか，やるだけの成果があるのか疑問だった。
<p>OPPAを使った後，OPPAについてどのようなことを思いましたか。</p> <p>外国語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが毎時間どのようなことを感じ，変容していくのかが想像以上に具体的に分かりました。 ・学習前後の質問だけでなく，毎時間子どもたちにその授業での最も大切なポイントを考えさせるのも，子どもの変容を見ていく上で重要であり，また教師の意図した内容が伝わっているのかを確認できるツールとなっていることを痛感しました。 ・学習前後の質問によって，より具体的に子どもの様子を把握できたり，逆にできなかったりするのだろうと感じました。

- ・ OPP シートを振り返ることで、子どもたち自身、こんなことができるようになったと達成感や充実感を感じさせることができました。
- ・ 自己表現活動を取り入れて外国語活動を進めることで、子どもたちが学ぶことへの期待感を持つたり、学習へ主体的に取り組む姿が見られた。
- ・ OPP シートを用いた振り返りを行うことで、子どもたちが単元を通しての変容を感じ、達成感や充実感を自覚することができました。

家庭科

- ・ 子どもの思考力・表現力をたかめることができる。
- ・ 毎時間記述することで、子どもの記述から授業の達成度（子どもの理解度）がわかり、授業改善することができる。また、OPP シートのやりとりで子どもに不足していることを補ったり、さらに高められる。個別のやりとりだけでなく、全体にもかえすことができる。
- ・ 子どもも教師も単元全体のふりかえりが簡単にでき、学びのあとが明確にできる。
- ・ 単元をつらぬく問いの前後を比較することで、子ども自身で成長をかんじることができていた。

音楽

- ・ 子どもが何を考えているのか、どう考えていたのか、何がわかり、どう感じていたのか文から読み取ることができ、授業を考えていく上で参考になった。
- ・ 実技の評価と合わせることで、より正確に評価ができそう。ただ OPP シートだけでは、実技教科の場合、難しそう。
- ・ 文を書くことを苦手としている児童は、なかなか書くことができず、分かったことや大切だと思ったことが単なる感想で終わってしまっていた。

体育

- ・ 子どもの動きだけではわからない、その時の考えを読みとることができると感じた。また、楽しい、つまらない、わからないと授業に対する子どものストレートな思いが表現されているので、「わからない」ところや「もっとこうの方がいい」ところによりそうすることで、授業改善に役立てられると思った。
- ・ OPP シートに発見したことや思ったことを言葉で表すことで、児童自身が自分の動きや変化に気づくことや、教師から子どもの変化や課題のみとりに有効であった。
- ・ 学習の始めに「みんなが楽しくつなげられる」ことを目標に1時間ごとの授業を考えていったが、運動が苦手な児童も楽しんで運動にとりくむことができた。ボールにも多くさわることができていた。

社会

- ・ 社会科の内容でも活用できる。
- ・ 1時間ごとの振り返りの記入については、抵抗があったが、書かせてみると、自分自身の授業の振り返りにもつながることが分かった。
- ・ 学習前や学習後の振り返りを書くので、単元の流れを意識した授業を実践することができた。

理科

- ・ 学習前後の問題の記述は、全員がくわしく科学的な内容になっていて、子ども自身が達成感・満足感を味わうことができる。
- ・ 自分の授業の振り返りが子どもの記述からできて、次時におさえ直すことができる。
- ・ OPP シートを書くという目的のために授業への集中力が高まった。
- ・ 1単元での使用だったが、コメントの記入が負担だった。

- ・書くことが苦手な子どもにとって授業の終わり5分でOPPシートを書かせるのはきびしかった。

OPPA使用前と使用後を比較して、何か変わったことがありますか。何も変わらなかった場合、何か変わったことがある場合、どちらにしても、それはどうしてなのか自由に詳しく書いてみてください

外国語活動

- ・実際にやってみることで、具体的にOPPAの活用方法についてイメージを持つことができました。使用前は、外国語活動でもOPPAを活用していけるのか半信半疑でした。それは、外国語活動が“外国語に慣れ親しむ”活動であるため、単元ごとの学習内容のつながりがうすく、学習前と学習後の同じ質問の設定についてイメージが持ててなかったからです。しかし、今回活用してみて、子どもたちの学習の変容が多く見られ、外国語活動においてもOPPAを活用していけるのだという思いを持つことができました。
- ・学習前後の同じ内容の質問をしっかりと設定できていなかったので（今回）、質問をどう設定すべきかについても具体的にイメージを持つことができました。

家庭科

- ・ふりかえりと評価にとっても有効であることがわかった。むずかしそうなお話やイメージだったが、堀先生になどにお話や意義をきけて、「まずはやってみる」「継続してみる」ことで、むずかしいことという捉えではなくその有効性を感じた。子ども一人ひとりのみとりをじっくりとすることができるようになり、その個に応じたコメントで力を伸ばせると思った。自分の教員としての授業をふりかえり、改善に役立てられるようになった。単元をつらぬく問いの「学習前」に記入することから、子ども達は自分が学びたいことを見出し、目的を明確にして単元全体を学習していけるようになった。（また、教師もこの問いを事前に考えることで、ここで学ばせたいことがはっきりした。）

音楽

- ・子どもたちは、書くことに対してはじめはとまどっていたが、回数を重ねるごとに慣れていき、最後はかなりスムーズに書けるようになってきた。
- ・前時の振り返りを導入であまり行わなくても、OPPシートを見て、自力で振り返り、授業に臨むことができた。そのため、前時でのことや既習内容から考えた意見が多く出た。

体育

- ・使ってみることで、子どもに沿った授業を考えられる術を手に入れられたと思います。（それをどう活用していくかはまだまだ今後の課題ですが・・・）子どもの日々の振り返りが、自分の行った授業の評価になっていると思うからです。また、文章分析法を用いることで、学習前後のイメージ・思考の変化がこんなにもわかるということにおどろきました。授業を通して何を目的にするのかが、子どもと確認できたので変化があったのかなと思います。

社会

- ・単元の学習過程に対する意識が変わった。
- ・OPPシートを作成することで、単元構成の中で指導すべきこと・児童に考えさせることなどについて意識できた。さらに、前時と次時のつながりも意識した単元構成を考えることができた。
- ・1時間ごとの授業への意識が変わった。
1時間のねらいを明確に取り組んだつもりだった。しかし、OPPシートの1時間ごとの記入を見ると、その時間に押さえない内容と児童とのあったことで、1時間についてふりかえりが出来た。

- ・児童への見とり方が変わった。

OPP シートへの記入によって、発言する児童が必ずしも理解しているとは限らないこと。発言は少ないが、シートの記入が本時のねらいと合致している記述をする児童もいた。OPP シートの読み取りによって、児童の学習理解について、新たな視点で見とることができた。児童の実態もわかり、どんな形の授業を組んでいくのかが、有効か考えるきっかけになった。

理科

- ・実際に使ってみて OPPA の幅広い効果を実感できた。(子ども自身の振り返り〈形成的評価〉、教師の授業の振り返り、児童の理解度の把握、学びを積み重ねることで達成感を感じられる、OPP シートを書くことを意識することで、授業への取り組む意識が高くなる)
- ・OPP シートを作ることで見通しをもった学習計画を立てることができる。

